



歴史の道 中山道

落合宿は、江戸へ八十二里十二町（約三二三km）、京へ五十二里九町（約二〇五km）の位置にある。町の長さ三町三十五間（約三九〇m）家数七十五軒を数えた。宿の町筋の中央には用水が流れ、町の中程に本陣と脇本陣（共に問屋兼務）があり、本陣井口家は尾張徳川家給人の千村氏（久々利方）、脇本陣塚田家は同給人の山村氏（木曾方）の庄屋も兼ねていた。江戸方町筋の入口には、道が直角に曲げられた櫛形がつくられ、往還の真中に常夜燈もあつた。

文化元年（一八〇四）十二年（一八一五）の二度の大火は宿に大きな打撃を与えた。しかし、現在も本陣井口家、梶・格子のある民家や江戸方の十曲峠と石畳、京方の与坂付近には江戸時代の面影を随所にとどめている。

落合宿

中津川市教育委員会

～～山はみどり 野に花 人にはこころ～～



落合宿を通過。次は、ママチャリには、厳しそうな**落合の石畳**。
当たり前の話だが、通過しないと、次に進めない。